

「身体感覚としての知識」

株式会社アグリコネクト 浅利直人

・受験のきっかけ

普遍的な内容の知識を体系的に身につけ課題を解決すること、その課題解決の能力があることを周りに見える形にすることが必要でした。私は、東京都西多摩郡日の出町に農場のある株式会社アグリコネクトで 2023 年 4 月まで働いていました。現在は長野県佐久穂町の農家の元で働いています。アグリコネクトでは、農場の立ち上げから関わり、当初は知識のない状態で野菜作りに励みました。様々な問題が起これ、その都度、各方面から様々なアドバイスを受けました。そのアドバイスは人によって異なり、多くは経験則からのものなので、自分の畑に当てはまる適切なアドバイスを見極めることが課題でした。農業の性質上、畑によって土壌が大きく異なるので、より普遍性のある知識を体系的に身につける必要性を感じていました。また、知識を身につけ、課題解決ができるようになったとしても、経験則に重きを置く農業界では、経験の浅い私には実践のチャンスが少ない部分がありました。そこで課題解決能力のあることを分かりやすく周囲に伝える方法を探していました。

・合格に向けての勉強方法

1 つは問題集と参考書を読み込み、実際にそれを現場に落とし込むことです。私が忘れない知識の多くは、実際に必要な知識であったことが多いです。必要だから学び、畑へ落とし込むことで身体で覚えました。もう一つは、周囲に共有することです。知識としての知識ではなく、役に立つもの、ストーリーとして面白いものを周りと共有し、知識と知識を繋げ、農場全員で面白がりました。知識と知識を繋げることで、世界が広がっていく感覚を楽しみました。

・資格の活用

前回の受験に合格してから、周囲への課題解決の提案が行いやすくなりました。また、実際に課題が解決することによって現場で土壌医検定の知識が価値のあるものだとして周囲に伝わり、3 級を職場全員に取得してもらうことができました。その結果、一つ一つの作業の理由を全員が精度高く把握することができ、組織としての目的意識を数段高くすることができました。一人が知識を持つことよりも、全員の知識を底上げする方が圧倒的に組織としてはパフォーマンスの向上に繋がります。例えばコミュニケーションが非常にスムーズになりました。具体的には、堆肥投入といった大変な仕事でも、「CN 比率の観点から必要だよ」と全員が納得して作業を行うので、今までの単なる作業から、「物理性、生物性の改善で野菜を健康にするぞっ」のモチベーションに変化しました。一つ一つの作業に対する「なぜ」を全員で理解することで納得感や観察力の向上、改善点の発見等、複数の効果があったと思います。技術者としてより高いレベルに進むためには、言語が重要であることを強く感じます。

・今後の目標

自分だけが知識を身につけることよりも、周囲と一緒に考え行動することがより重要であると考えています。共通言語を話せるようにすることは、その土台になります。しかし、「知識としての知識」を学ぶことは基本的に苦痛が伴います。そこで、「ストーリーとしての知識」や「役に立つ知識」として面白おかしく土づくりの魅力を伝え、共通言語の普及に努めたいと思います。また「知識としての知識」である部分が自分の中に残ってしまっているため、畑で実践することで身体を通じた知識に落とし込むことをこれからも行います。

農業はアカデミックに証明されていないことを実践して成果を上げることができます。土壌医検定を通じて広

くアカデミックな情報を知ることができたので、逆にここには載っていない仮説や経験則を認識することができました。農家としてアカデミックな基本を抑えながらこの未知の領域を深堀し、成果をあげたいと考えています。その未知の領域のいくつか、いつかアカデミックな内容になることに貢献できれば嬉しく思います。今は多品目栽培を行う豊富な経験と普遍的な知識を持つ信頼できる農家の元で学んでいます。この環境で知行合一を実践します。

